

9月16日～9月22日 商品検査実績

●微生物検査 211 検体

検査の結果特に問題はありませんでした。

●理化学検査 158 検体

食品添加物検査	12 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
残留農薬検査	外部検査機関に1 検体依頼しました。検査の結果問題ありませんでした。	
簡易農薬検査	10 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
P C R 検査	畜種判別検査	4 検体検査しました。検査の結果問題ありませんでした。
	GMO検査	10 検体検査しました。検査の結果問題ありませんでした。
	米のDNA異種米判定	外部検査機関に2 検体依頼しました。検査の結果問題ありませんでした。
	コシヒカリ品種判定	4 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。
米鮮度判定	3 検体実施しました検査の結果問題ありませんでした。	
卵鮮度判定	80 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
アレルゲン検査	今週は実施しておりません。	
ヒスタミン検査	10 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
アフラトキシン(カビ毒)	今週は実施しておりません。	
放射性物質検査(スペクトロメータ※①)	22 検体(米3 検体、鶏卵8 検体、野菜3 検体、果物5 検体、水産2 検体、飲料1 検体) 実施しました。全て検出下限値(約20Bq/kg) 以下となりました。	
放射性物質検査(サーベイメータ※②)	今週は実施しておりません。	

- ・ヒスタミン検査＝ヒスタミンによる食中毒は、アレルギー様食中毒の一つであり、鮮度の低下したマグロやカツオ、サバなどの赤身魚やその加工品が原因となることが多いため、検査でヒスタミンの濃度を測定します。
- ・アフラトキシン＝アスペルギルス属の一部のカビが産生するカビ毒で肝臓がんの原因の一つと考えられています。アフラトキシンが作られる最適条件は、温度30℃前後、湿度95%以上であるため、高温多湿の熱帯地方等が最も適しています。輸入食品の安全性に関わるため、日本では、輸入時に行う抜き取りのカビ毒検査やカビそのものが生育していないか外見上の検査を実施しています。なお、日本国内で、食品にアフラトキシン汚染が起きる可能性は低いものと考えられています。

※①NaI シンチレーションスペクトロメータ：<sup>しゃへいたい</sup>遮蔽体付検査機器で核種を特定できるもの：ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137 を測定

※②NaI シンチレーションサーベイメータ：<sup>しゃへいたい</sup>遮蔽体無しの持ち運びできる機器：ガンマ線総量を測定



組合員さん VOICE

## 組合員さんの 想いにこたえて

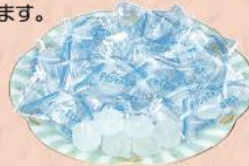
みなさんから寄せられた声を商品・運用にいかす取り組みをしています。

ほしや製菓の「デリシャスミント」の案内がずいぶん前にありましたが、この頃は全然ありません。とてもいい味です。ぜひ案内をお願いします。

## 実現 しました

商品のリクエストをいただきありがとうございます。ご要望いただきました「デリシャスミント 92g(個包装込)」は、10月3回企画で案内することになりました。

原材料に砂糖(グラニュー糖)、水飴、L-メントール(ハッカ脳)を使用し、後味の良さを追求した、清涼感のあるキャンディーです。この機会にぜひご利用をお願いいたします。



## 今月のお知らせ 8月1回COMET2 表紙で案内した吉野本葛を使用した商品について



8月1回のCOMET2の表紙で、奈良の特産品である吉野本葛を紹介し、吉野本葛を使用した「葛水羊羹」「ふるん」「ぶるとろ葛餅」を案内していましたが、「吉野本葛」の産地について、ご意見をいただきましたので、お知らせいたします。

「吉野本葛」は吉野葛製造事業協同組合※が地域団体商標登録をしたものであり、奈良県の吉野地方及びその近辺で精製された本葛または葛にのみ「吉野」と冠し、「吉野本葛」もしくは「吉野葛」と表示することができるとされています。

そのため、この基準を満たすのであれば、原料である葛の根の産地が、国産、外国産を問わず、「吉野本葛」として販売されています。8月1回のCOMET2で案内してありました商品については、原料となる葛の根は国産に加え、外国産(中国、韓国)も使用されています。

また、「本葛」と「葛」の違いについては、「本葛」は葛の根から取り出したでん粉(葛でん粉)だけを原材料とし、寒水に晒して精製したものをいいます。そのため、商品の一括表示に書かれている原材料名は「葛でん粉」もしくは「くず粉」となります。「葛」とは、葛でん粉を主原材料に用い、従原材料としてつつま芋から自然工法により採取したでん粉(甘しよでん粉)を混合したものをいいます。そのため、商品の一括表示に書かれている原材料名は「葛でん粉・甘しよでん粉」となります。

※吉野葛製造事業協同組合：御森野吉野本葛本舗、御黒川本家、瀬高事候、御井上天極堂の4社で構成されています。



## 商品検査レポート 8月に実施した商品検査の結果をご案内します。

毎月の検査結果はHPにも記載しています。▶<http://www.naracoop.or.jp/goods/letter/kensadayori.html>

検査種別	検査数	検査項目							検査の結果、いずれも問題ありませんでした。	
微生物検査	1,009	店舗新規商品検査において「水産1商品」が一般菌数にて不適合となり、取扱いをしないこととしました。								
理化学検査	399	主な検査項目	食品添加物	簡易農業	畜種判定	残留農薬(外務省検定済品)	ヒスタミン	カビ毒		
			86	51	7	5	40	6		
放射性物質検査 (NaIシンチレーションスペクトロメータ※①)	75	米	野菜	果物	牛乳	鶏卵	水産	冷蔵日記	飲料	検査の結果、全て検出下限値(20Bq/kg)以下でした。
		9	26	18	9	8	2	2	1	
放射性物質検査 (NaIシンチレーションサーベイメータ※②)	15	野菜	果物	きのこ	検査の結果、全てバックグラウンドとの差異が※③3kcps(キロ・カウント・パー・セカンド)以内となりました。					
		6	6	3						

※①NaI(エヌイーアイ)シンチレーションスペクトロメータ：遮蔽体(しゃへいたい)付検出器で核種を特定できるもの：ヨウ素131、セシウム134、セシウム137を測定

※②NaIシンチレーションサーベイメータ：遮蔽体無しを持ち運びできる機器：ガンマ線総量を測定

※③kcps(キロ・カウント・パー・セカンド)：1秒間に対象となるものから何

回放射性物質が放出されているか測定するものです。奈良県行政と同様にバックグラウンド(放射線測定の際の測定対象以外からの放射線や宇宙線や天然の放射性物質に起因する)との差異を3以内としました。NaIシンチレーションサーベイメータではガンマ線総量を測定し、検出が疑われる場合は、NaIシンチレーションスペクトロメータで確認検査を行うこととしています。

